

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	単元ごとに生徒が自らの学びを振り返る時間を設定する取り組みを、ほぼ全ての教科で実施したことで基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、市学習状況調査の教科別正答数分布表からは、正答数20%以下の人数割合が市の割合を上回っている教科が複数あった。年度当初の教科会などで生徒が自らのペースで学習を進めることができるような学習指導計画を立てるなど、個の学力に応じた支援や指導を行っていきたい。
思考・判断・表現	今年度の市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94.4%と高い割合を示した。一方で、授業におけるICTの活用について学年間で差があるなどの課題が見られた。次年度は、授業でICTの活用頻度を高めるため、教員相互の授業見学の機会をさらに確保し、教科指導における効果的な活用方法を研究していきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt;昨年度市学習状況調査結果より、基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化しており、知識の概念的な理解に課題が見られた。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;生徒が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。</p>	⇒ 授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【単元ごとに設定】。また、スクールダッシュボードの「授業アンケート」を活用し、「つまづき」が多く見られる学習内容を重点的に指導・支援する。
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt;昨年度市学習状況調査結果より、主に国語と数学で「思考・判断・表現」に関する設問の無回答率が高かった。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt;学習課題に対する生徒の思考プロセスへの評価場面を設定しきれていない。</p>	⇒ 「ミライシード」や「Teams」などを活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図り、データベースで学びの振り返りができるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】

⑤	評価(※)	調査結果	授業改善策の達成状況
知識・技能	B		単元ごとに生徒が自らの学びを振り返る時間を設定する取り組みを、ほぼ全ての教科で実施することができた。市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」の質問では、肯定的な回答が87.3%と市の平均を上回った。ただし、スクールダッシュボードの「授業アンケート」の活用状況については、実施率の向上を達成できなかった。引き続き、校内研修等で教員への理解を深めていく。
思考・判断・表現	B		「ミライシード」や「Teams」などを活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図り、思考プロセスへの評価場面を確保するため、校内研修や教科会等で実践例について研究した。ただし、市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめるたりする学習をすることができましたか」の質問では88.2%であり、市の平均を下回った。授業での利活用の頻度において、学年間で差が生じている点に課題が見られた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R5年度の自校の結果と比較し、国語-6.8pt、数学+7.6ptであった。国語の、文脈に即して漢字を正しく書く力に課題が見られた。ただし、国語の全国平均正答率は昨年度よりも-7.4ptとなっている。
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R5年度の自校の結果と比較し、国語-16.2pt、数学-11.1ptであった。数学の、統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明する力に課題が見られた。ただし、国語の全国平均正答率は昨年度よりも-14.3pt、数学の全国平均正答率は昨年度よりも-12.3ptとなっている。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の、主語と述語との関係について理解しているかどうかを見る問題については、1,2学年とも市の平均正答率を上回った。また、社会では無回答率がおおむね1%未満であった。ただし、数学で、一次関数の変化の割合の意味を理解しているかを問う問題については正答率が低く課題が見られた。知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	理科の、鉄と硫黄が結びつく化学変化を化学反応式で表す問題については、市の平均正答率を上回り、高い正答率となった。また、ほぼ全ての教科において無回答率が低い結果となった。ただし、社会で、日本と世界の位置関係に着目し、世界各地との時差について考察する問題について課題が見られた。今後も、教科横断的に学びを関連付けながら思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	単元ごとに生徒が自らの学びを振り返る時間を設定する取り組みについては、多くの教科で実施することができた。ただし、スクールダッシュボードの「授業アンケート」の活用状況については課題がある。校内研修等で教員の理解を深めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	「ミライシード」や「Teams」などを活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図り、思考プロセスへの評価場面を確保する点については、校内研修や教科会等で実践例について研究し、授業改善に繋げることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)